

# 学びの広場



京都市教育委員会  
教員養成支援室  
令和8年2月7日 No.9

## 第8回京都市教育学講座 パネルディスカッション 『先生を目指す塾生に期待すること ～保護者の立場から～』

第8回教育学講座は、小学校・中学校・総合支援学校から3名の保護者の方をお招きし、パネルディスカッション形式でお話を伺いました。それぞれの学校に通う我が子を見守る中で、子どもや学校・教師との印象的な出来事などについて、具体的なエピソードを交えながら語っていただきました。

特に塾生にとって印象深かったのは、『先生と保護者の信頼関係は、子どもの姿を通して築かれていく』というお話です。毎日楽しそうに学校から帰ってくる姿、「先生がしっかりと話を聴いてくれた」「～ことができるようになった」という子どもの一言。その積重ねが、我が子のため、学級全体のために先生が尽力してくれているという安心感へとつながることがわかりました。

また、保護者の方にとって『先生が子どものことをよく見てくれている』という実感も、先生への信頼に繋がるということも語られました。例えば、個人懇談会で、学習中の様子や遊んでいる姿、友達との関わりなど、家庭では見えにくい学校での姿を丁寧に伝えてもらえることは、大人数の学級の中でも我が子のことをよく見てくれている、大切にしてくれているという安心感につながります。『子どもをよく見る』というのは、児童理解のためだけではなく、保護者との関係づくりにも繋がるという新たな視点を得た塾生も多く見られました。

3名の保護者の方に共通していたのは、保護者も学校や担任の先生も、根底には『子どもを育て、子どもの成長を見届けたい』という同じ願いを抱いているという点でした。この願いを基盤に、子どもを真ん中としてコミュニケーションを重ねることで、互いの理解が深まり、信頼関係が築かれていくことを学ぶことができました。

保護者の方の声を直接聴く機会は、実際に学校現場に立ってからでないといけないものです。そのため、保護者との関わりに不安を抱く塾生も少なくありませんでした。しかし、保護者の方の思いや考えを聴かせていただくことを通して、これまで抱えていた心配や不安から、『保護者とともに子どもを育てていく』という前向きな気持ちへと繋げることができました。

### 全体会



### 分散会



3名の保護者の方には分散会も巡回していただき、塾生からの質問にも直接お答えいただきました。



## 仲間のレポートに学ぶ



このコーナーでは、「レポート集」に綴られた素晴らしい学びの1ページを紹介します。ぜひ、仲間の学びにふれてみてください。



今回の講義で、特に印象に残ったことは2つある。1つ目は、子どもと向き合うことが、保護者との信頼関係につながることである。教師は「保護者対応」を意識しがちだが、まず大切にすべきなのは目の前の子どもであり、「子どもがあつての保護者である」ということを忘れてはいけないと感じた。日常的に子どもの話に耳を傾け、しっかりと向き合うことで、子どもとの間に信頼関係が生まれる。その信頼関係は、子どもの言葉や態度を通して保護者にも伝わっていくことを学んだ。講義の中で話していただいた「立ち歩きを注意する場面」の例は、同じ注意の仕方でも、ある子どもには問題なく伝わる一方で、別の子どもには恐怖心を与えてしまう可能性があることを知った。教師に悪気がなく「そんなつもりではなかった」と思っても、子どもが感じた恐怖や不安は簡単には消えず、不登校などの問題につながることもある。一人ひとりの性格や感じ方を理解し、その子に合った声掛けを工夫することが、子どもとの信頼関係を築く一歩になると学んだ。このような「一人ひとりに合わせた関わり」は、子どもだけでなく保護者に対しても必要であり、家庭訪問や電話連絡などを通して、保護者と関わる機会を大切にし、日頃から関係づくりを行っていきたい。

2つ目は、保護者は敵ではないということである。教師と保護者は、子どものことを思うがゆえに意見が違ったり、衝突してしまったりすることもあると思う。しかし、根本にある思いはどちらも「子どものため」であり、同じ立場にいる存在であると学んだ。日頃から子どもの様子をよく観察し、「この子は〇〇が得意で、〇〇が苦手」「普段は〇〇さんとよく一緒に過ごしている」と把握しておくことが重要であり、保護者に伝えることで安心して子どもを任せただけだと考える。また、分散会では、保護者への電話連絡は、トラブルや注意事項を伝える場面が多くなりがちだという話し合いになった。しかし、保護者は「学校で子どもがどのように過ごしているのか」「どんなことを頑張っているのか」「どんな成長が見られるのか」といった前向きな姿も知りたいはずである。日常の中で子どものよい姿や努力している場面を見つけ、それを保護者に伝えられるような工夫ができる教師になりたいと感じた。

校種の違う保護者の方々から貴重な話を聞きました。子どもの成長を願う思いは保護者も教師と同じ、保護者は子育ての仲間でした。日々の子どもとの丁寧な関わりの積重ねが子どもの信頼になり、その積重ねが保護者の教師や学校への信頼に繋がることもわかりました。つまり「目の前の子どもを大切に」「力のつく授業をする」ことが大事なのですね。「学校が楽しい」「授業が面白い」子どものこの言葉が最強です。仲間でも立場が違うので考えのすれ違い、ぶつかり合いは生じます。保護者にも「個に応じた関わりを」←その通りですね。対応や情報交換はチームで。視点や方法が広がります！

～クラス担当スタッフからのコメント～

## 第27回 京都市総合教育センター 教育研究発表会 【再掲】



※第20期京都教師塾のフィールドワークとして位置付けています。

令和8年2月13日(金)14:10～17:00、当センターにて教育研究発表会を開催。

次期指導要領を展望し、現在の教育課題に即応する3つのテーマ

「教師の成長と学校」「(小)教科での探究的な学び」「(中)総合的な学習の時間の充実」について実践的な研究内容を報告。

下記の二次元コードから内容の予告動画や申込サイトに移動できます。



どうぞご参加ください！

